

ていばーく所蔵資料紹介②

ひしかわもろのぶ どうかいどうぶんけん え ず  
菱川師宣の東海道分間絵図



見返り美人の作者として有名な菱川師宣が描き、絵地図作者として有名な遠近<sup>おちこち</sup>道印<sup>どういん</sup>が正確な縮尺で製作した江戸から京都までの東海道の絵地図です。1町3分の縮尺（12000分の1）で、方位、宿場間の距離、各宿の間屋名など街道や宿場の様子が詳しく描かれています。

この絵図は折帳5冊として元禄3年（1630）に刊行されましたが、それ以降の実用的な旅行案内の元となりました。

写真は、原、吉原間の部分で、山頂に雪を残した富士山や街道に雨が降っている様子などが描かれており、実用だけでなく絵としても十分観賞できる内容であることが分かります。

（表紙解説）

東海道五拾三次之内 平塚 <sup>なわてみち</sup> 繩手道

平塚宿の西側から元花水の土橋の先に高麗山<sup>こま</sup>が立ちはだかるように描かれている。その山影から富士山が少しだけ顔を覗かせている。

宿はずれを示す傍示杭<sup>ほうじくい</sup>の横では、疾走してくる早飛脚がのんびりと空の駕籠を肩に担いで帰る人足二人と今すれ違おうとしている。